（一財）八尾市人権協会　〒581-0004 八尾市東本町 3-9-19-312　TEL072-924-9853　FAX072-924-0134

2026年6月24日号
NO 2 号

じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

OYAOYA 通信

じんけんにゃんだふる

じんけんわんだふる

学びのホームグラウンド　じんけん楽習塾

６月 24 日のじんけん楽習塾は「映画制作を通じて向き合った部落差別のいま」がテーマです。講師は満若 勇咲さん（映像作家）です。

1986年京都府出身。大阪芸術大学映像学科在学中、映画監督の原一男氏のもとでドキュメンタリー制作を学ぶ。
22年に監督作品『私のはなし　部落のはなし』が公開。

みんなのふりかえり　２回目６/１０

多民族共生社会のために－
ワークで考えるレイシャルハラスメント／マイクロアグレッション

文　公輝さん
（NPO 法人多民族共生人権教育センター事務局長）

＜参加者の感想＆ふりかえり＞

●当たり前のように、マイクロアグレッションを日々受けていた場合、被害者の心は綻び壊れてあきらめていくと思うと、非常に理不尽で、悔しいと感じた。加害者の当り前は、不知の重ね着のようであり、悪意の有無にかかわらず、罪であると強く思った。そんな場面に遭遇したら、自分の言葉でいたわりを持ち伝えようと思った。

●具体的なワークに取り組むことで、レイシャルハラスメント・マイクロアグレッションについて、理解を深めることができました。

本日学んだことを、職場の人にも伝えることで、アクティブバイスタンダーを増やしていきたいと思います。

●自分のことを振り返り、レイハラをしていたことがあると分かりました。今日を境に行動する傍観者になりたいと思います。忘れたり失敗したりするかもしれませんが、その時はまた反省して考え続けたいと思います。

●外国にルーツのある人の現状をしっかり捉え直す必要があると感じました。知識のアップデートになりました。また、ワークを通して、久しぶりに学んでいる自分にワクワクしました。その人の気持ちを大事にできる、そんな人になっていきたいと思いました。

●差別をしない、させない、そしてなくす生き方を選んでいくために必要なことをたくさん学ぶことができました。レイシャルハラスメントチェックシートの項目をみたときに、はっとする項目があったので、日常をみつめ直していきたいです。

●ただの傍観者でなく行動することで少しずつ変えていきたいと思います。ひとりではなかなか難しいのですが、それを具体的に考えることができました。

●マイクロアグレッションについて関心を持っていたので、今回の研修を楽しみにしていました。気づいた時に行動できるようにさらに勉強していきます。

●千回続く指先を紙で切る怪我は、人を殺す。
と言う言葉が印象に残りました。自分が千回めになっていないか、どんな人へも誠実でありたいと思いました。

●2017 年のアンケート、やはり貴重なデータだなと思いました。10 年経ったし、悪化してそうなので、またやってほしい！

ワークも、こうやって考えるのがだいじだなと改めて思いました。特に「視線」は、説明が難しいけど、ことばではなくても、ネガティブなメセージを伝えてしまう（効果）ものとして、大事なポイントだと思いました。(MA をことばの問題と思っている人も多いので）（ともち）

●ありがとうございました。「問題だよね」とわかっていても、声をかけるとなるとむずかしいといつも感じています。ワークでいろいろな意見やお話が聞けて、よい機会となりました。

●レイシャルハラスメント、マイクロアグレッションを放置することは、差別的言動を放置することであり、「ささいな」差別が容認される社会・組織文化のなかでは、差別はエスカレートするとは、まさにそのとおりだと思います。おかしいことに真っ向からおかしいと言うことは、1 人では実はなかなか難しいこともありますが、行動する傍観者としてなら、さまざまな方法があることを改めて確認できる機会となりました。差別に立ち向かって裁判をするより、あきらめて生きていく方法をさぐることが今の現状では多いという現実をしっかりと見つめていきたいと思います。

●今日いっしょにいた方が、まさに外国人差別発言をされたので、外国人とひとくくりはせずにその人がしたことですよねーと伝えたことがありました。地方出身の場合も似たようなことがあり、大阪に出てきてすぐはちょっと嫌な思いもしたことがあり、傷がフラッシュバックをするとおっしゃられてたのが、頷きでした。もっともっと子どもの頃から今日のあたりまえの認識を持ち、広がるような社会を目指していきたいです。行動する傍観者。響きました。ありがとうございました。

●マイクロアグレッションって加害者に自覚がないだけに NO を直接的に突き付けると拒絶しか帰って来なさそうで対応が難しいなと感じていました。がその行動がどう差別として機能してるのかをきちんと語源化して示していただけたことで上手く対応出来そうだと思えるようになったことが大きな収穫でした。行動し寄り添える人になれる貴重な情報を得れてとても心強く今日のお話を活かせるよう消化していきたいです。（さち）

●とてもよかったです。
文さんのお話はとてもわかりやすく、GW のコメントを聞いていると、対面する相手を想像して向き合う自分自身の姿勢を学ぶことができたように思いました。

たとえマイノリティ同士であっても複合差別を含む相談ができない・差別的対応の場面をいくつか経験・聞いたりしましたが、何かに属すると言えなくなったり、属していることで完結してしまう傾向が強い場合も多いと思います。その場合、当事者はどこにも居場所がない経験をしています。当事者がそこに立ち向かうことへの労力とダメージは計り知れないものがあると感じます。

今回の講義を受けて、当事者の周りの人たちがきちんと知ろうとし続けていくことで、追いつめられる当事者に寄り添える人が増えていく、そんな社会を目指していきたいと思えました。ありがとうございました。

★今回の OYAOYA 川柳★

悪意なき　学ばない君　罪深し
些細では　無いかも知れん　その言葉（さち）
そんな気は　ないかもやけど　傷付いた（さち）
見過ごさず　声をあげよう　差別には（さち）

連絡

毎回ふりかえり用紙をくばります。オンラインの場合はファイルを送ります。
後でメールまたは、ファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。（公開だめなものはオープンにしません）

写真を撮影しますが、ＯＹＡＯＹＡ通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用する場合があります。なるべく個人が特定しにくいものをと考えていますが、困るという方は事務局に申しつけください。